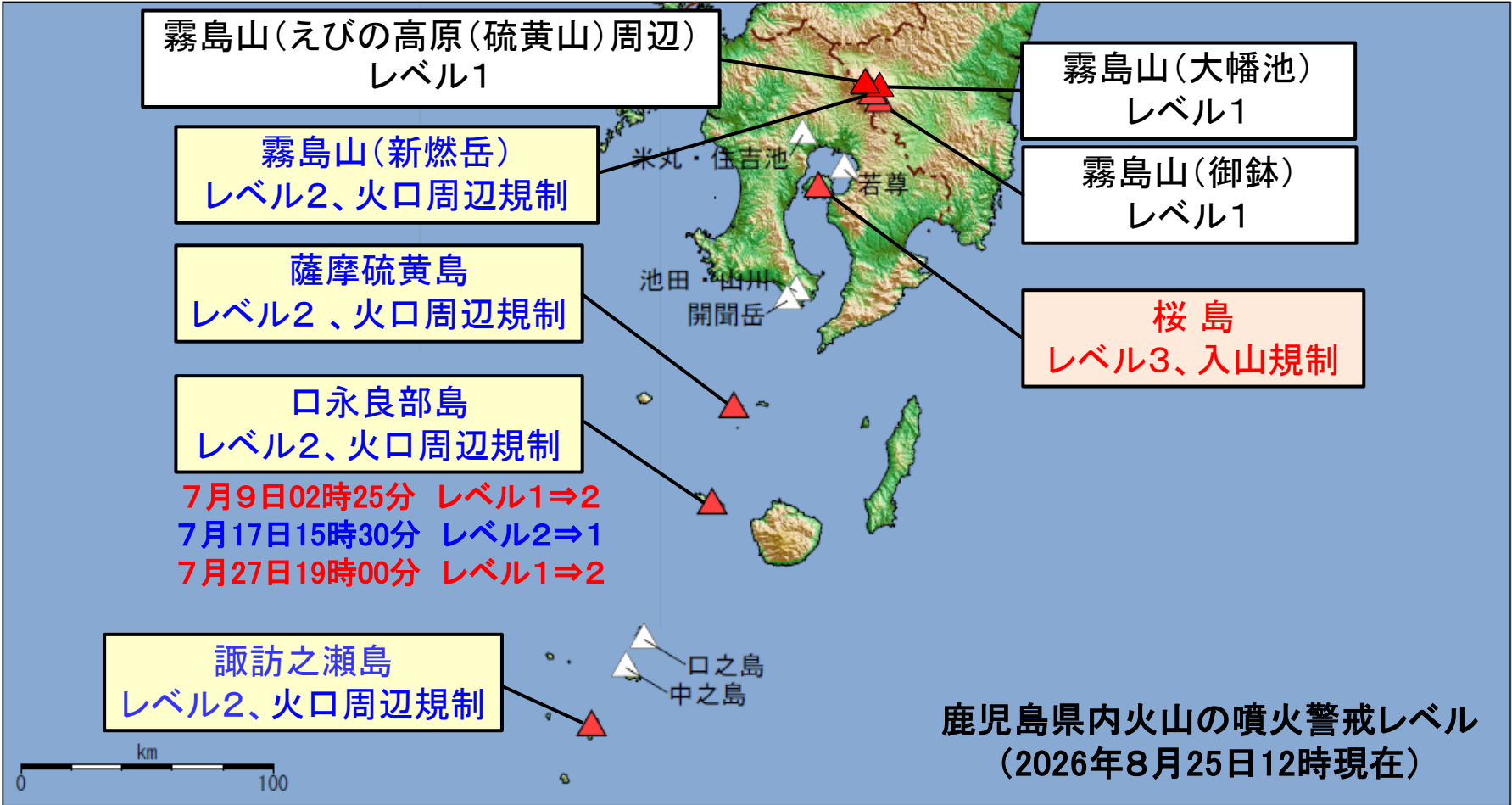


鹿児島県の火山活動概況

2026年7月～8月20日



南岳山頂火口（縁）上の噴煙の高さ（日最高）

— 連続噴火 △ 噴火 ▲ 爆発 ◆ 火映

m

年/月

昭和火口（縁）上の噴煙の高さ（日最高）

— 連続噴火 △ 噴火 ▲ 爆発 ◆ 火映

m

年/月

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量

ton/day

● 平日
○ 最大値
× 検出未定

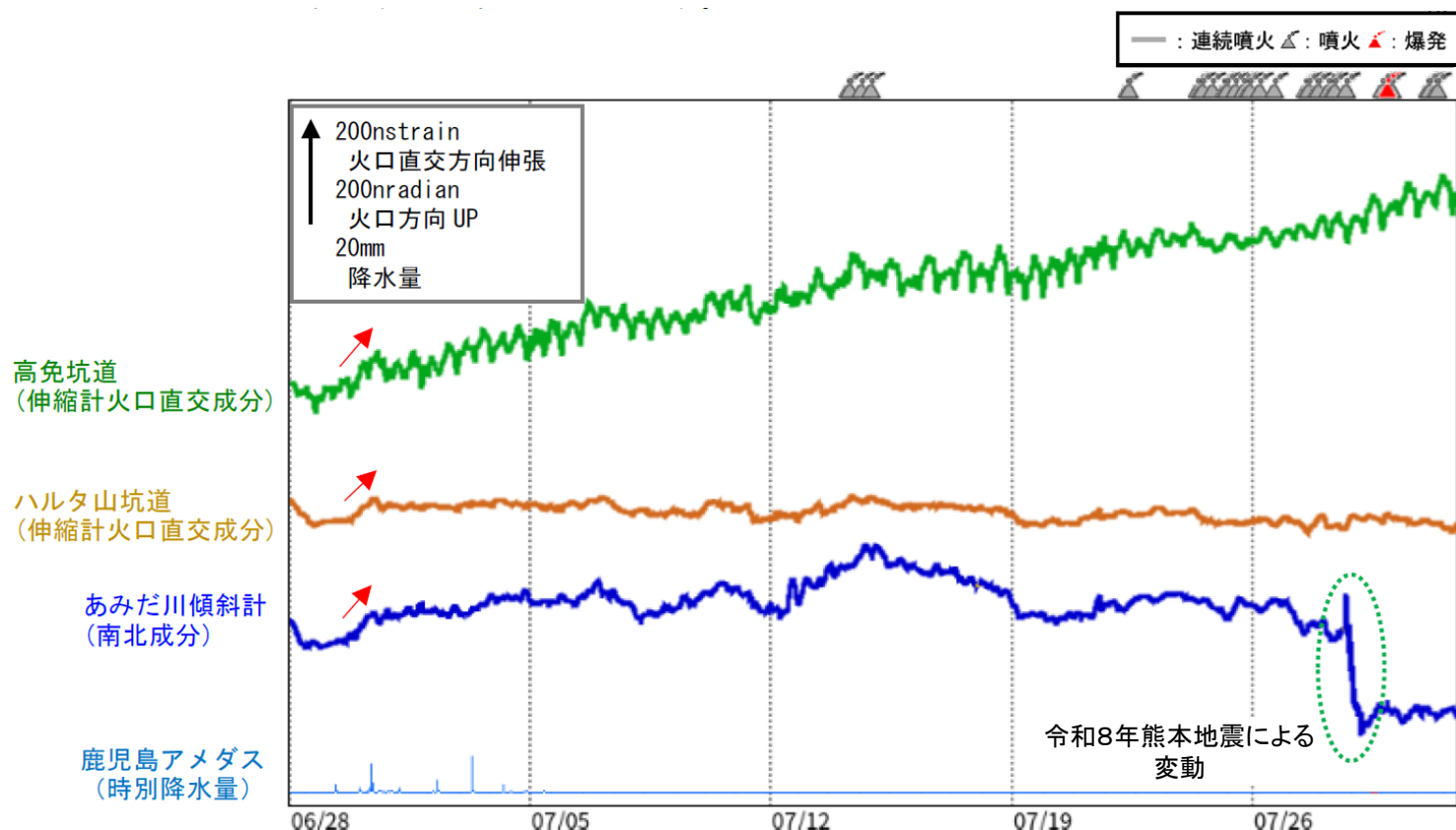
年/月

桜島 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲: 火口から概ね2km
(2022年7月27日20時00分発表)

7月以降の主な状況

傾斜・伸縮 桜島島内の傾斜計及び伸縮計では、6月29日21時頃から山体の膨張（隆起）を示す地殻変動が観測されたが（図中矢印）、7月1日頃から停滞した。



桜島 傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況（2022年6月28日～7月31日）

※各観測点のデータは潮汐補正を行っている。

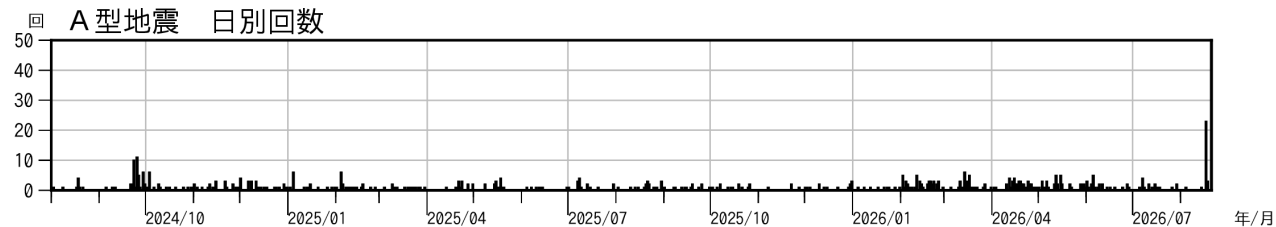
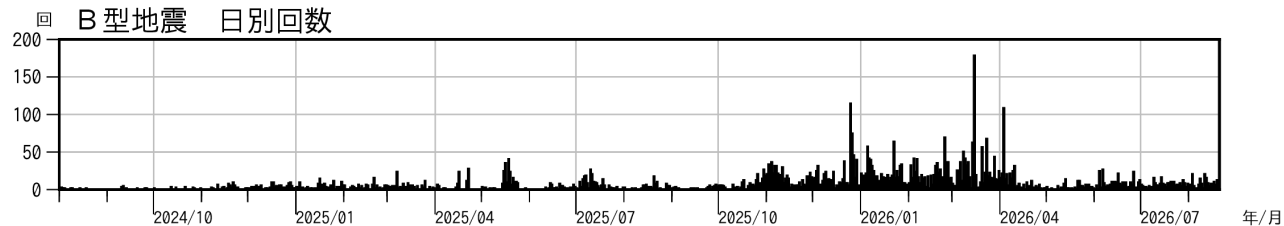
※図の作成には、京都大学のハルタ山坑道、高免坑道の観測データを使用している。

※あみだ川観測点は山頂火口域のほぼ北に位置していることから、傾斜計南北成分の南側が上がる傾斜変動を火口側が上がる変動とみなして表示している

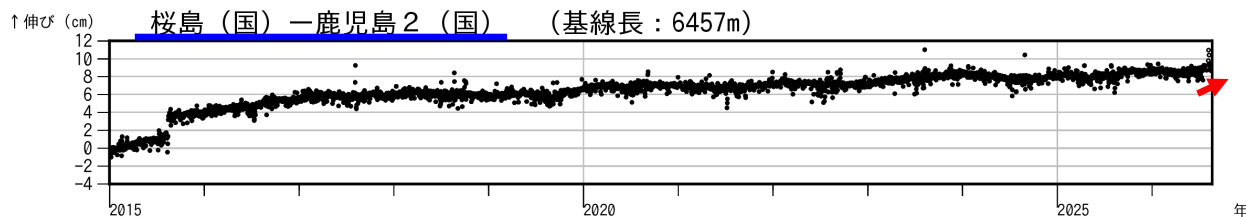
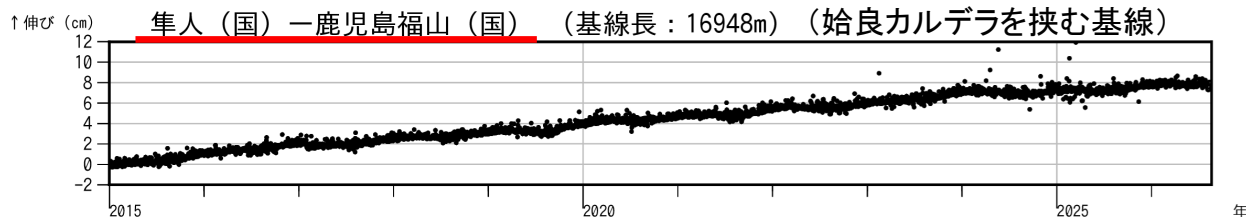
桜島 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲: 火口から概ね2km
(2022年7月27日20時00分発表)

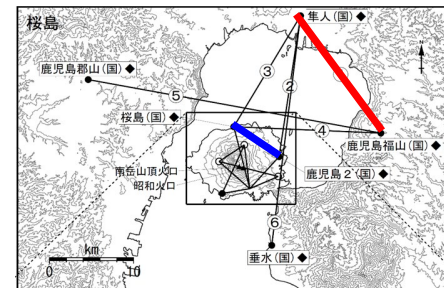
	7月以降の主な状況
震動現象	火山性地震は少ない状態で経過
G N S S	長期にわたり始良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられる 桜島島内の一部の基線で2026年5月頃から山体膨張に伴うとみられるわずかな伸びがみられる



桜島 地震活動推移(2024年8月～2026年8月20日)



桜島 GNSS基線長変化(2015年1月～2026年8月20日)

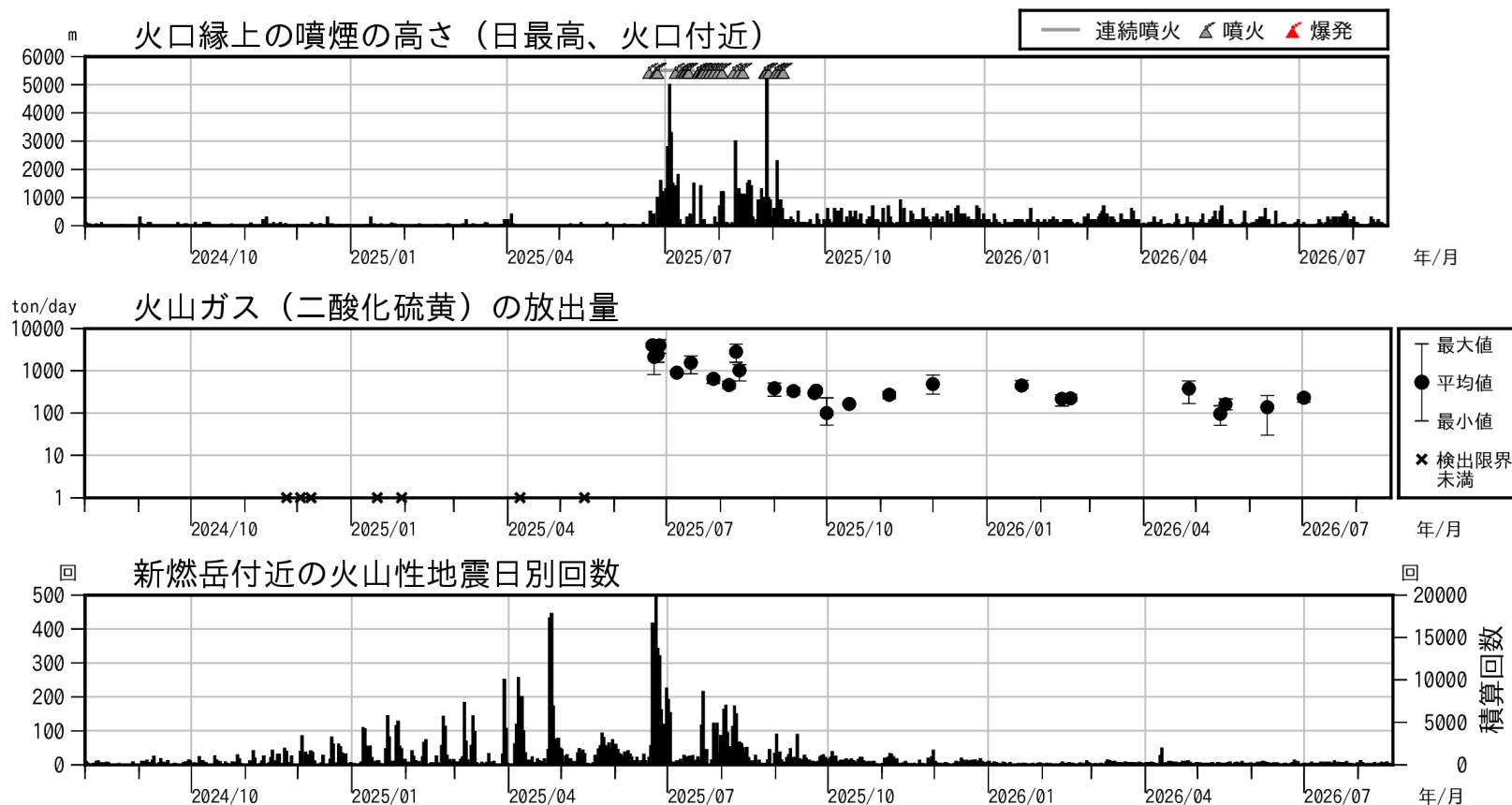


新燃岳 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒範囲: 火口から概ね2km
(2025年10月17日11時00分発表)

7月以降の主な状況

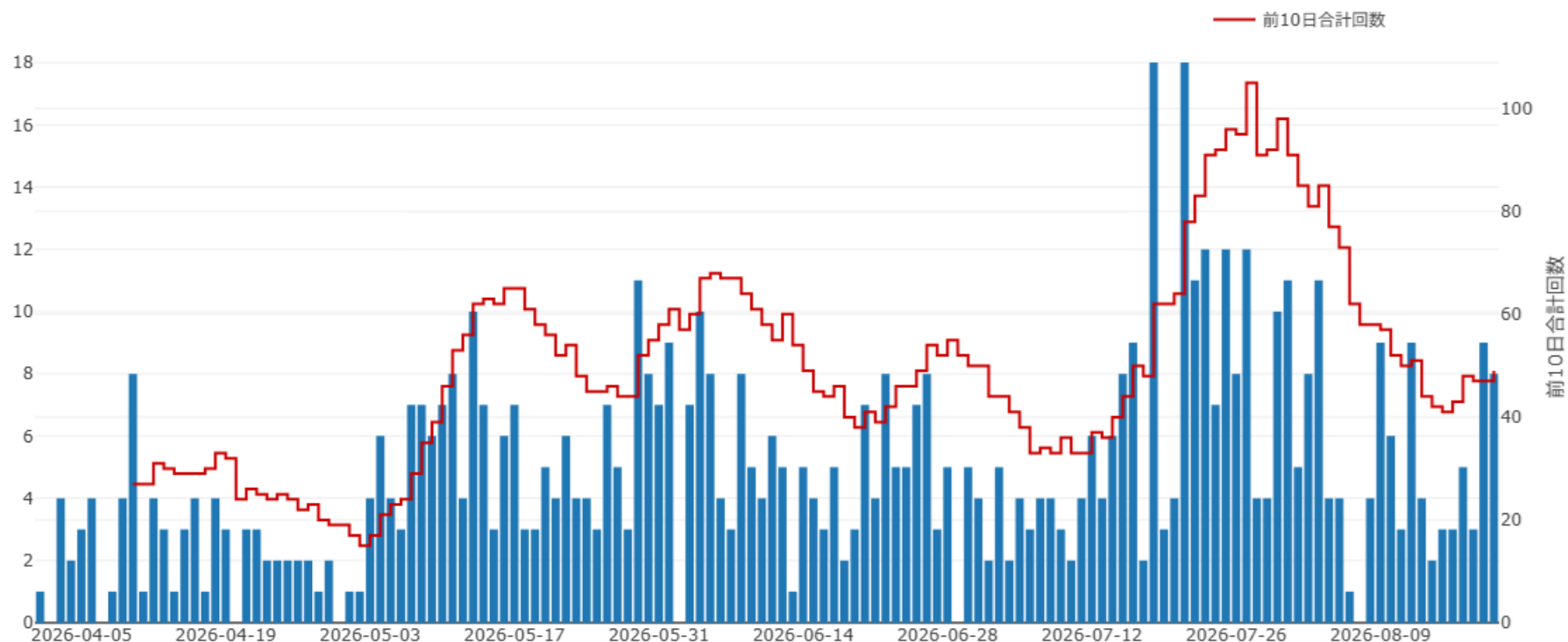
活動評価	火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は1日あたり数百トンの状態が継続、火山活動は高まった状態で経過
噴火活動	2025年9月8日以降、噴火は観測されていない
火山ガス	火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は1日あたり平均200トンとやや多い状態
震動現象	火口直下を震源とする火山性地震は少ない状態で経過



新燃岳 火山活動経過図(2024年8月~2026年8月20日)

7月以降の主な状況

5月頃から古岳火口付近の浅いところを震源とする火山性地震が増減を繰り返す中で、7月14日頃からさらに増加（図中矢印）、山体の浅いところでの地震活動が活発化した



口永良部島 火口浅部における火山性地震の日別回数及び10日間積算回数
（2026年4月1日～8月20日）